

も 森 林 の 話

第30話
留萌南部森林管理署
平野 愛梨

若手職員のコーナーです

留萌南部森林管理署に勤務し2年が経過しようとしています。私は道東で生まれ育った根っからの道民ですが、今まで訪れたことが無かった留萌市の厳しい気候に日々驚かされ(特に冬)、改めて北海道の広大さを実感しています。

私は1年目に「増毛森林事務所」で現場業務、2年目に「業務グループ」で主に経営に係る業務に携わっています。今回は業務のなかで印象に残っていることについて紹介したいと思います！

【採石事業】

留萌南部署では副産物の販売として、採石事業を行っています。採石とは、砂利などに利用するための石を採ることを言います。砂利は建物や道路の建設工事など幅広い場面で使用され、本事業で採取されている砂利も、事業開始当初はダム建設での使用が目的でしたが、現在では様々な目的で利用されているようです。

採石場は圧巻の広さで、特撮ヒーローが爆発とともに怪人を倒す場所を彷彿させますが、写真のとおり、採石を行うと地面はむき出し状態になってしまい、このままでは土砂災害などの危険が高まってしまいます。そのため採石作業が終わると、ヒーローが怪人を連れてくる暇もなくトドマツやカラマツ等の苗木を植えるなどして緑化作業を実施します。

【冬の現場業務について】

冬は雪が降り積もり、軽装備で現場に行くことは難しくなります。このため、冬はゾンメルスキーやスノーシューを駆使して現場業務を行います。特にゾンメルスキーは冬の現場で大活躍しますが、普段生活している中でゾンメルスキーを目にする機会はあまり無いのではないのでしょうか？私もこの職場に入るまでゾンメルスキーの存在を知りませんでした。

ゾンメルスキーは普通のゲレンデスキーとは違い、踵が浮く形状になっており、また雪に接する面にアザラシの毛皮がついています。初めて使用したときはアザラシに身を任せる事に心もとなさを感じていましたが、登りで滑り止めになってくれるアザラシが、今ではとても心強い存在になっています。

ゾンメルスキーとゲレンデスキーではコツが少し違うとよく耳にします。使用する機会がありましたら、ぜひ一度トライしてみてください！

【最後に】

大学では林業とは異なる学問を学んでいたため、今は林業について勉強の毎日です。今後も日々の業務やOJTを通して幅広い視野で学びながら、業務に励んで

いきたいです。

最後まで読んでいただきありがとうございます！

